

“結愛” ~ゆい~

『職員紹介』

ケアマネジャーの白倉です。今回は、石和温泉病院訪問リハビリテーション室の主任として勤務している小林 司(こばやし つかさ)さんをご紹介致します。小林さんは、山梨県理学療法士会訪問理学療法委員会の委員長に就任され、山梨県全体の訪問リハビリテーションを背負って立つリーダー的存在です。一般社団法人訪問リハビリテーション振興財団では山梨県の代表として活躍しており、他県への出張や会議も多く日々忙しく走り回っています。

私生活では2人の娘さんを愛情いっぱい育てる子煩悩なパパであり、趣味は家庭菜園とお酒と家事手伝い。TPOに合わせたファッションセンスは目を見張るものがあります。小林さんはその方らしさを大切にし、利用者様が望む活動を実現してくれます。「竹で作った流しそうめんをしたい。」「趣味であった釣りに行きたい。」など訪問リハビリの関わりの中で、生きがいや希望を見つけ、実行に移す人情味と行動力には脱帽です。釣りの時は熱意が伝わり主治医の先生も参加してくださいました。

【その方らしい生活】を大切にする当事業所を今後とも宜しくお願い致します。

『利用者様の声』

今回、協力して下さったのは、1月15日に誕生日を迎え105歳となられた、訪問リハビリ利用者最年長のK様です。K様は、現在B市にある有料老人ホームに入居されております。以前は東京で小学校の先生をされており、「謠い」の家元に嫁がれたK様は年齢を感じさせずお話しをして下さりました。

昨年7月、自室内で転倒し大腿骨を骨折、その後手術を行い、11月末にホームに戻られました。K様に目標を伺うと「長生きをしすぎました。親戚もみんないなくなって1人ポッチになってしまった。1日でも早く天に昇りたい。」とさみしい返答がありました。しかし、ホームのスタッフに迷惑をかけたくないと「自分でトイレに行く」と前向きな目標を掲げ訪問リハビリを頑張っています。

目指せ！B市最高齢！！をケアチームの勝手な目標に掲げ運動療法や口腔ケアに関わっていきます。 <訪問リハ室 小林>



『理学療法士とは』

理学療法士とは《Physical Therapist (PT) : フィジカル セラピスト》とも呼ばれます。病気やケガ、手術、加齢などにより身体機能が低下した人や低下が予測される人に対して、座る・立つ・歩くなど基本動作能力の回復や維持、及び悪化予防を目的に理学療法(運動療法や温熱・電気を用いた物理療法)を行い、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職です。また本人だけではなく家族への介助の助言や指導、身体の状態に合った福祉用具の提案、住宅環境の調整などを行い、家族も一緒に過ごしやすい環境を作るお手伝いをしています。

患者様、利用者様の「その人らしさ」や「生きがい」を一緒に探し、生活の質の向上を目標に日々理学療法を行っています。



床からの立ち上がり練習